

# Book Information



## ホワイトリボン・キャンペーン

これまで女性への暴力について被害者支援や防止・啓発に取り組んできた、その多くは女性たち自身でした。当事者に限らず、女性たちは女性への暴力を「自分たちの問題」として声を上げ、呼びかけをし、行動をしてきたのです。

では、女性への暴力について、男性たちは「自分たちの問題ではない」ということになるのでしょうか。もちろん、暴力をふるうのは一部の男性です。とはいえ、男性たちも「自分たちの問題」として同様に暴力に対してNOという声を上げることは可能はずです。自分は暴力なんてふるわないから無関係と考えたり、あるいはそもそも関心をもたなかったり、結局は沈黙したままでは、そうした暴力を容認することにほかなりません。反対に、男性も声を上げ暴力に立ち向かうならば、女性への暴力根絶にさらに近づいていくはずで

女性への暴力をなくすための男性の取り組みのひとつに、「ホワイトリボン・キャンペーン」があります。1991年にカナダで始まった、男性が主体となって男性

の暴力に立ち向かう啓発運動です。先進的な海外の事例としてはオーストラリアを挙げることができ、「ホワイトリボン」を知っている国民は75%にもものぼるとされています。さらには、国連が「女性に対する暴力撲滅の国際デー」と定めた11月25日に「ホワイトリボン」による啓発活動を行っている国・地域は50を数え、オーストラリアやニュージーランドなど、同日を「ホワイトリボン・デー」と呼ぶ国もあります。

日本においても、2015年に全国展開を目指してホワイトリボン・キャンペーンの活動が本格始動しました（「ホワイトリボンキャンペーン・ジャパン」<http://wrc.jp/>）。暴力を振るわないことはもちろんですが、こうした運動を伝えたり、被害者を支援したり、ホワイトリボンを身につけたりと、活動方法はたくさんあります。関連する本を手に取り、その実態等を知ること活動の第一歩です。

(参考)

多賀太・伊藤公雄・安藤哲也 (2015) 『男性の非暴力宣言』岩波書店

## 【役立つ3冊をご紹介します】

※市内図書館&すくらむ21で読めます&借りられます。



ホワイトリボン・キャンペーン入門の一冊

『男性の非暴力宣言——ホワイトリボン・キャンペーン』

著：多賀太・伊藤公雄・安藤哲也  
出版：岩波ブックレット、2015年

日本でのホワイトリボン・キャンペーン全国展開に向けて、その意義や経緯がコンパクトにまとめられた宣言の書。75頁の手軽なブックレットに、男性に訴えていくための海外のユニークな取り組みや成功事例、日本におけるDVの現状と背景、何をすればいいかなど、まず知っておきたい情報が凝縮されています。



「特別な人」ではない加害者を知るために

『加害者は変わるか?——DVと虐待をみつめながら』

著：信田さよ子  
出版：ちくま文庫、2015年

DV加害者と呼ばれる人たちは、しばしば「自分こそ被害者だ」と言います。そうした逆転は、なぜ起きるのか。加害者と被害者のあいだに横たわる曖昧さは、暴力をするのは一部の特別な人だけの問題という想定を崩すものでもあります。自分には関係がないと考えている方にこそ手にとっていただきたい1冊です。



恋愛関係における非暴力を学ぶ

『ストップ! デートDV——防止のための恋愛基礎レッスン』

著：伊田広行  
出版：解放出版社、2011年

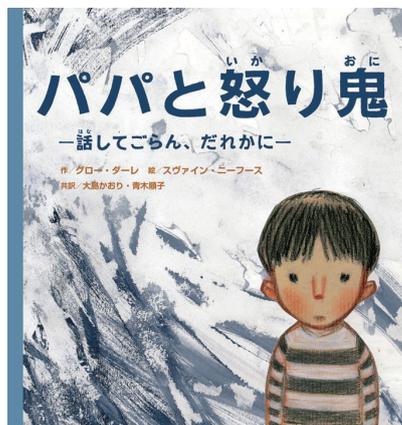
非暴力は、夫婦間のみならず若者の恋愛関係においても求められることです。恋愛のイメージや憧れゆえに陥りやすい問題などが、学校での防止授業のように分かりやすい語り口調で書かれています。川崎市を含む首都圏の九都県市でも共同の取り組みとして、デートDV防止の啓発を進めています。<http://www.city.kawasaki.jp/templates/press/250/0000092266.html>

# 絵本の紹介 生きること学ぶこと

## パパと怒り鬼

### ——話してごらん、だれかに

すくらむ21  
館長  
推薦



著者：グロー・ダーレ / 作  
スヴァイン・ニーフース / 絵  
大島かおり、青木順子 / 訳  
出版社：ひさかたチャイルド

【DV】・【デートDV】など、女性に対する暴力根絶の象徴のパープルリボン（♀）、男性が男性に女性への暴力根絶を呼びかける運動を象徴するホワイトリボン（♂）もあります。また、【児童虐待】については毎年11月を児童虐待防止月間と位置づけてオレンジリボン（♀）キャンペーンを行っています。昨今、様々な暴力禁止を訴える運動が行われ、暴力への反対運動が広がりを見せています。しかし、なかなか無くならない現実もあります。最近では、女性から男性への暴力もあるという調査結果も出ていますし、身体への暴力のみならず、言葉の暴力などその内容も様々なものが暴力・虐待と捉えられるようになりました。

例えば、子どもの面前で行われる両親間のDVは、児童虐待防止法の改正で、児童虐待と認識されるようになりました。絵本「パパと怒り鬼——話してごらん、だれかに」には、子どもの視点から両親間のDVがいかに子どもの心に恐怖と悲嘆を与えるのかということが描かれています。また、DVが3つのサイク

ル（イライラ期→爆発期→ラブラブ期→イライラ期→…）を回っていく様子がとても分かりやすく描かれています。パパのようになりたいとあこがれる僕は、パパの変化に合わせて息を詰めるようにママと暮らしていく。誰にも言えない、言葉に出せない苦しさを抱えながら…。でも、自然の中でなら声を出すことができました。それをきっかけに、他者の力を借りながらパパが暴力から再生していく希望の物語です。

DVが児童虐待でもあることを多くの人に知ってほしくてこの本をお勧めします。そして、DVからの脱却は難しく時間がかかることですが、できないことではありません。どうぞご一読ください。

#### すくらむ21 10～12月の新入荷書籍

※すくらむ21で読めます＆借りられます。

裸足で逃げる——沖縄の夜の街の少女たち 著者：上間陽子 出版社：太田出版	だるまさんの 著者：かがくいひろし 出版社：ブロンズ新社
文科省 / 高校「妊活」教材の嘘 編著：西山千恵子、柘植あづみ 出版社：論創社	だるまさんが 著者：かがくいひろし 出版社：ブロンズ新社
男尊女子 著者：酒井順子 出版社：集英社	バーバパパのジュースづくり 著者：アネット・チゾン、タラス・テイラー 翻訳：山下明生 出版社：講談社
大田美和の本 著者：大田美和 出版社：北冬舎	じぶんだけのいろ ——いろいろさがしたカメレオンのはなし 著者：レオ・レオニ 谷川俊太郎訳 出版社：好学社
ヨチヨチ父とまどう日々 著者：ヨシタケシンスケ 出版社：赤ちゃん和妈妈社	考えよう！女性活躍社会（全3巻） 編：孫奈美 出版社：汐文社
もうぬげない 著者：ヨシタケシンスケ 出版社：ブロンズ新社	夢みる昭和語 著者：女性建築技術者の会 出版社：三省堂
産む・産まない・産めない ——女性のからだと生きかた読本 編：松岡悦子 出版社：講談社現代新書	シングル女性の貧困 ——非正規職女性の仕事・暮らしと社会的支援 著者：小杉礼子、鈴木晶子、野依智子、横浜市男女共同参画推進協会 出版社：明石書店
ジェンダー研究を継承する 編：佐藤文香・伊藤るり 出版社：人文書院	

